



# 2020 年度 杏林大学

## 【 講 評 】

大問構成に変更があった。大問 1 は文法・語法問題で例年通りだが、問題数が 15 問から 10 問に減少した。大問 2 は会話問題から語句整序問題に、大問 3 は正誤問題から文整序問題に変更された。大問 4 の長文問題には大きな変更はなかった。大問 3 の難易度がやや高かったため、日頃から論理展開を意識して読解しているかどうかで差がついたと考えられる。その他の大問の難易度は例年並みであった。

## 【 解 答 】

### I

(ア) ④

主語の **people** 自身を目的語に取るので、④が正解となる。

(イ) ①

可算名詞の **advances** を修飾するので、**little** は不適。また、比較対象が無いので **less** も不適。副詞 **so** が **a few** を修飾することはない。よって①が正解となる。

(ウ) ②

主節が過去形なので時制の一致で②が正解となる。

(エ) ③

**can't help ~ing** : ~せずにはいられない

(オ) ④

**very** はどちらかというと客観的、**really** はどちらかというの主観的なニュアンスをもつ。修飾する **first** は客観的な事実なので④が正解となる。

(カ) ③

**no matter+疑問詞** で **疑問詞+ever** と同じ意味になる。

(キ) ②

**for** は交換の意味を持つ。ミスと引き換えに 5 点減点、と言っているので②が正解となる。

(ク) ②

The ( ) of で数量の意味を持たせたい。most of ~ という場合、most の前に the はつかないの  
で、②が正解となる。

(ケ) ④

第四文型であることを見抜ければ、your idea とイコールにできる④が正解となる。

(コ) ②

sample でいっぱい flask を落とし、実験が台無しになっていると言っている。原因と結果を結んで  
いるので、②が正解となる。

## II

(ア) ② (イ) ④ (⑤②①④③)

活用動詞の had が入っているので節をつくる。show が原型であることに注目すれば had to show  
の並びだとわかる。

(ウ) ③ (エ) ⑤ (④③①⑤②)

be の前に入りうるのは could のみ。また、be in serious の主語になりうるのは you のみ。make  
の目的語がないので one mistake を入れればよい。

(オ) ④ (カ) ③ (⑤④①③②)

that 節の主語 language の動詞は are spoken になる。up to 7000 : 多くて 7000 程度  
とできれば正解となる。

(キ) ④ (ク) ② (①④⑤②③)

最後の空欄は、前後の形の類似性から wishes と対になる語が入るので⑤。(ク) に入りうるのは複  
数名詞の②のみ。最初の3つの空欄は Washington Irving と同格になるように埋めれば正解とな  
る。

(ケ) ④ (コ) ① (⑤④②①③)

I wish と before より仮定法過去完了なので I'd の'd は had の短縮形だと分かる。よって you'd told  
とする。残りは tell O about ~ で並べればよい。

(サ) ⑤ (シ) ④ (③⑤②④①)

動詞原型を二つ入れられる形が have to get であり 第四文型を使って get it cleaned とできると正  
解となる。

### III

(ア) ② (イ) ③ (④②⑤③①)

④の **This attitude** に該当するのは **people tend~**のみなので最初は④。④以外は別の話をしているので次に逆接の②を入れ、⑤の **This is that~** の **that** 節が説明しているのは②の **new idea** だと考えられるので次は⑤。①に **well example of these different ways** とあるので **these ways** が指す **different ways** を含む③が先に入る。

(ウ) ① (エ) ⑤ (③①④⑤②)

逆接に注目して時系列で並べる。②は **these latest figures** とあるのでこれが指す⑤の後に入る。

(オ) ③ (カ) ① (②③⑤①④)

②に **In addition** とあり、別の話題に加えて「気温」の話題を導入していると分かる。同じく「気温」に言及しているのは③である。**In addition** より前に「気温」に言及するのは不自然であるから、③-②ではなく②-③の順で並べる。次に④の **This** が何を指すか考える。「水が存在していた、と信じられている火星で起こったこと」に当たるのは①の内容であるから、④-①で並べる。残った⑤を②-③と④-①の間に入れると自然な文章になる。

(キ) ⑤ (ク) ① (②⑤④①③)

疑問文とその応答のペアが②-⑤、①-③であることが分かれば埋められる。

(ケ) ④ (コ) ③ (⑤④②③①)

⑤**Why not?** は **not** が含まれる最初の発言の直後に入り、この応答として正しいのは④ 残りは初話者が二人のうちどちらなのか分けて適当なものを入れればよい。

(サ) ① (シ) ④ (⑤①③④②)

タクシーに乗る乗客と運転手の会話である。④の疑問文への応答が②、①の発話への応答が③であり、④の **One more thing** に注目すれば①③④②と並ぶ。これらの会話はタクシーの中で行われるのが自然なので⑤が先頭に入る。

### IV

(ア) ②

**make a fire** とイコールになれるのは②のみ。

(イ) ③

一段落目7行目の **the first thing they think~** に合致する。

(ウ) ②

第2・3段落を読むと、人間が環境適応に用いる道具の一例として火を挙げており、人間がどのくらいの期間火を必要としてきたかは触れられていない。このことから④を選びたくなる。しかし、第2・3段落は「どのくらいの期間火を必要としてきたか」を明らかにしてこなかった研究の具体例として、ダーウィンを挙げています。筆者はこれに基づいて、火を必要してきた期間を明らかにすることが重要であると考えている。下線部直後の文に「ほとんどの人がこの問題について考えてこなかった」とあることから、下線部は答えの出ていない問題だと分かる。よって②が正解となる。

(エ) ④

第三段落1行目の記述に合致する。

(オ) ④

第二段落の内容をまとめると④以外は不適。

(カ) ②

①は第一段落最後の文と矛盾する。③は **should** 以下が述べられていない。④は記述がない。また、これらは本文の要旨と関係がないので、**important point** とは言い難い。

(キ) ①

要旨に合致する。

(ク) ①

要旨に一致する。

(ケ) ④

選択肢が形容詞なので、どの名詞を修飾するのか考えると、**food** である。また、**otherwise** は前述の内容を指して、そうでない場合は、という意味なのでこの語が指す内容も考える。**cooks food** を指していると考えれば、調理しなければ(ケ)の食材を調理する、となり④**indigestible** (消化できない) が正解となる。

(コ) ③

要旨に一致する。

(サ) ④

第五段落1文目に、**If pain** ~~~という記述がある。ここでの**If**節は現在形で、もしAならB、という意味よりは、AであるならBとも言える、くらいのニュアンスで使われている。

(シ) ④

第一段落4行目の記述と一致する。

(ス) ①

percentage of GDP の形が一致する前文の①が正解となる。

(セ) ③

第三段落の内容と一致する。

(ソ) ④

phantom pain は、失った体の部位があった場所に、今は何もないのに感じる痛みだ、と第四段落に書いてあるので、④が正解となる。

(タ) ①

第五段落後半の内容に合致するので、①が正解となる。

(チ) ④

第五段落 3~5 行目の説明に合致する④が正解となる。

(ツ) ②

第五段落後半の内容に合致するので、②が正解となる。

(テ) ②

In other words とあるので、前の内容と同じことを述べればよい。医者は直接患者の痛みを感じることができず、患者とのコミュニケーションか推量することしかできないという話をしていたので、合致する②が正解となる。

(ト) ①

②、③は本文の記述と逆なので不適である。本文は痛みの表現について述べているので、①が正解となる。

お問い合わせは ☎ 0120-302-872

<https://keishu-kai.jp/>